

## 第6回嘉麻市熊ヶ畑地域小さな拠点施設整備等審議会 会議要録

1. 審議会等の名称 第6回嘉麻市熊ヶ畑地域小さな拠点施設整備等審議会
2. 開催日時 令和5年4月26日(水) 19時00分～20時30分
3. 開催場所 嘉麻市役所 4階 防災対策室
4. 公開または非公開の別 公開
5. 非公開の理由 (会議を非公開とした理由)
6. 出席者
  - (1) 委員  
井原委員 飯島委員 大田(晴)委員 小野田委員  
大田(岱)委員 宮崎委員 深町委員 有田委員 緒方委員  
※欠席：山田委員、圓入委員、高松委員
  - (2) 事務局  
総合政策課長 大村輝生                      総合政策課長補佐 松隈康典  
地域活性推進係長 山口宏彰              地域活性推進係 児玉直人  
地域活性推進係 伊藤奈津
7. 傍聴人数 0名
8. 議題及び審議内容
  - (1) 第5回会議要録について(資料⑤)  
(事務局) 第5回会議要録についてご意見等あればお伺いしたい。  
(※意見等なし)  
(委員) 会議要録についてではないが、前回資料説明の際、『身の丈に合った』と説明があったが、具体的にどのような事か。(『身の丈に合った』は前回委員長発言)  
(事務局) 今後設計するにあたり、当審議会にて決定した方針、小さな拠点づくりの目的、地域将来計画の構想、ランニングコストを可能な限り縮減するなどを考慮した上で設計に反映するといった主旨であった。  
(委員) 最初の段階で出してもらえれば期待した構想はたてなかった。  
(事務局) 皆様に小さな拠点づくりについて理解を求めていなかったことは反省すべき点である。当審議会の目的は小さな拠点づくりとして地域での雇用や必要なサービスが受けられるような体制を整えることが目的である。関係人口を増やす事や市内外から人を呼び込むことは主の目的としていない事をご理解いただきたい。  
(委員長) 地域の希望や市の課題を含め審議を行ってきたが、話が膨らんだりしぼんだりというのは必要な会議プロセスではないかと個人的には思っている。事務局も調整が出来なかった点については注意するとともに、進行についても反省している。
  - (2) 施設整備方針(熊ヶ畑地域)(資料16)  
事務局より資料16について説明。  
(委員長) ③地元食材提供機能とは売るまたは飲食スペースも設けるといった意味か。二つの意味であれば地元食材の提供及び飲食スペースを確保としたほうがよい。  
(事務局) どちらともとれるように記載しているところである。

(副委員長) 白雲荘の代替施設とはどの程度なのか具体的に記載してはどうか。また『山田活性化センターと連携し〜』の文言は共通事項とした方がよいと考える。③の『地元運営となることを考慮した〜』は地元食材提供機能のみに限定されるため、こちらも共通事項としてはどうか。

(事務局) 白雲荘の代替施設とは機能および規模の事である。活性化センターとの連携はご指摘のとおり共通事項である。地元運営に関しては前回のご意見より飲食機能に記載しているところであるが、全体に関わることなので了解いただければ修正する。

(委員長) 意見をまとめると、①健康増進機能の『既存の白雲荘の代替施設〜』に機能および規模と追記。『山田活性化センターと連携し〜』の文言と、③地元食材提供機能の『地元運営となることを考慮した〜』は共通事項へ記載してはどうか。

(副委員長) 例として、施設は広くなったがコストは同じとなると代替施設として成立する。現段階で全体予算とゾーニングが出てない時点で規模については審議できない。

(委員長) 機能に対する基本方針のため機能のみ追記してはどうか。(※意見等なし)  
→白雲荘の機能等の代替施設とする。

(委員) 施設は現状と同じまたは小さくなるのか。

(事務局) 基本的には委員長にまとめていただいたとおりに整理していく。施設規模について、前回説明したとおり公共施設の適正化が求められており延床面積の縮減をはかる必要がある。市全体で縮減していくため施設規模については同等または場合によっては大きくなることもあり得る。

(副委員長) 延床面積で判断とは敷地も含んだところか。

(委員長) 建物のみ面積である。

(事務局) わかりやすい例とすると、千手・泉河内地域でも同じように小さな拠点づくりの事業を進めているが、当事業により廃校になっている2校の校舎、体育館の解体を行うと延べ床面積は縮減される。熊ヶ畑のみで判断するのではなく、市全体の状況をみて設計に反映していく。

(委員長) 国は人口が減ると比例して施設も縮減する方針。老朽化した施設は新しくしつつ、人口に対して適正な規模で建設するというのが公共施設整備の考え方。少しずつ規模は小さくなるかもしれないが、その中でも必要なものを考慮していくということになる。

※審議会意見に基づき、以下のとおり修正

- ①【健康増進機能】：『既存の白雲荘の代替施設〜』 → “機能等”を追記  
『山田活性化センターと連携し〜』 → その他(共通事項)へ
- ③【地元食材提供機能】：『地元運営となることを考慮した〜』 → その他(共通事項)へ

### (3) 建築意匠デザイン方針(熊ヶ畑地域)(資料17)

事務局より資料17について説明。

(委員長) 資料が建築意匠デザイン方針となっているが、意匠とデザインは同等の意味であるため『意匠』は削除した方がよい。

(事務局) ご指摘のとおり修正する。また、資料16および17について文言を統一したい。

(委員) なんとなくイメージは出来るが、審議会内でパースなどは提示されないのか。

- (委員 長) 今回決定した方針を設計に落とし込んでいく。
- (委員) 審議会委員を希望したのは施設イメージの構想を反映させてほしいという思いもあったため、残念である。
- (委員) 活性化センターとの連携をはかるとあるが、行政と協議するのか、または決定事項を組合に伝えるのか。
- (事務局) 形成委員会にて活性化センターと一体とした施設整備については話をしていたところである。改修内容については組合長にも話はさせていただいている。
- (副委員長) デザイン方針を設計に落とし込んでいくとは思いますが、優先度は審議した方がいいのか。フラットにしてしまうとどこにでもあるような施設になってしまうのでは。
- (事務局) 基本的には審議会意見として盛り込んでいく予定であるが、諸条件により出来ない部分が出る可能性はある。ただ現段階では不明なため基本設計、実施設計で業者へ提示していく。
- (委員 長) おおまかな方向性はどれも当然の条件でありどれがメインかは言えないが、方針に優先順位がつくことはあり得る。
- (事務局) 審議会の意見として重点的という箇所があればご意見をいただきたい。
- (委員) 個人的には施設のシンボル性があるようなデザインを優先したい。
- (副委員長) 委員の意見をかえすようで申し訳ないが、候補地は抜け感があるため個人的には何を建ててもシンボルにはなると思っている。地域課題への取り組みや、地域資源を活用するという意味でも自然を活かすことをキーワードにしたい。
- (委員 長) 機能的と環境的なものを一つずつ入れるといいのでは。
- (委員) 地域資源の活用ということで、市内でも多い間伐材を使用してはどうか。
- (委員 長) 間伐材を使用することは一概に良いとは言えず、色々なところで同意を得にくい可能性はある。
- (委員) 必ずしも間伐材を使用するという意味ではなく、コスト削減のために使用するのでもいいかと思った。
- (委員) 間伐材が安いとは限らない。逆に費用が上がるかもしれないので要望として受け取っていただければいいのでは。
- (委員 長) 施設整備方針のその他に地域資源の有効活用とあるため、地域資源の有効活用（間伐材等）などと記載してもよい。
- (事務局) 嘉穂小学校は間伐材を使い木質化としているが、費用は高かったと聞いている。検討はするが費用面もあるためご意見として承る。
- (副委員長) ピンポイントで具体的に入れた方が実現度は上がるのか。費用面もあると思うが時間をかけて審議した方がいいのではないか。
- (事務局) 具体的な指定をされても実現できない部分もあると思う。配慮事項として『○○等』といった記載は出来るかもしれないが、今後の設計に支障が出る可能性もあり。
- (委員) 形成委員会当初の話からこれからの熊ヶ畑について協議してきた中で、地元意見として白雲荘、活性化センターが熊ヶ畑のシンボルであり、今後も維持できたらということであった。資料を見てもなかなかイメージは出来ないが、ほっとできる空間が一番いいと思っており、それが協議の原点である。ただ、大きなお金が動いて運営まで携わるとなると軽々しく発言できない。知らない人同士が仲良くなる事が白雲荘では当たり前だったため、ずっと続いてほしいと思っている。

- (委員) 以前ロードマップでは本日の提示資料は基本計画図案や配置比較検討表、意匠比較検討表となっているがどうなっているのか。
- (事務局) これまでの審議の中でイメージを提示していく予定であったが、中身が決定しておらず、業者も資料の提示ができないということであった。抽象的とは思いますが、審議会では大きな方向性を決定いただき、内容を盛り込んだ上で設計を行っていきたい。今後は出来る限り地元の意見を聴取しながら進めさせていただくことになり、ロードマップとは変更になっているところである。
- (委員) ボイラーについてはどのようになったのか。
- (事務局) 以前説明させていただいたが、設備関係は基本設計の段階で検討したいと考えている。自然環境に配慮したものや持続可能なものを検討していくところである。
- (委員) 以前サルビアパークのボイラー音についての話をしたところだが、現在は解消されていることを報告する。
- (委員) SDGsの観点からも検討の余地はあると考える。木質バイオマスボイラーを使用する事で熊ヶ畑のシンボルともなり得る。
- (委員) 委員が言われるように熊ヶ畑のシンボルにもなり、障がい者雇用にもつながるためこの提案が流れないような仕組みを作っていただきたい。
- (委員長) ランニングコストの配慮にこのような意見があったと報告してはどうか。
- (副委員長) ランニングコストに配慮もしくは地域資源有効活用でもよい。具体的な文言を入れると制限が発生してしまうが、ボイラーとは釜の意味であり、熱交換という意味では薪ストーブもボイラーである。全体コストで考えると審議会としても導入の方向で異議はないと思う。
- (事務局) 事務局はバイオマスボイラーについてイニシャルコスト、ランニングコスト等を把握していない。限定した文言を入れることで費用面があがるなどといった影響が出ることを懸念している。事務局としてはそのような意見が出ていることも踏まえ、包括的な意味ととれるような文言で表現できればと思っている。
- (副委員長) 木質バイオマスボイラーといった文言を入れるのではなく、自然エネルギーを使用したといった文言で構わない。シンボリックにロビーに薪ストーブを置いたり、コストをクリアできればボイラーを入れることも出来ると考えている。ふり幅のあることばを使えばいいのではないかと。審議会としても『木を活かす』という事を一言入れたい。
- (委員) 審議会としてここは推したというところがないと、回数を重ねただけでは意味がない。財政面もあるとは思いますが、審議会の意見として取り入れていただきたい。
- (委員) 以前重油や電気とも比較を行っており、十分採算がとれるとみている。近隣では田主丸の病院でもバイオマスボイラーを使用している。
- (事務局) 温浴施設に限らず、様々なエネルギーを活用する方法があると思うが、現状把握していないため基本設計段階で反映できるものはしていきたい。限定される文言となると費用面で厳しくなることも想定されるため、『検討する』程度の文言でご理解いただきたい。
- (委員) 検討するというのはどのように捉えたらよいか。
- (事務局) 審議会の意見として自然エネルギーを検討してほしいという意味である。
- (副委員長) 予算の範囲内でおさまるエネルギーを使用してほしい。検討してできなかったとい

うのは市としても避けるべき。予算が限られていることも理解している。地元委員会や審議会が出てきた想いが一番現れるフレーズではないか。

(事務局) どんな方法や活用ができるのかは把握しておらず回答が出来かねるため、次回までに調査を行い実現可能な部分があれば記載させていただきたい。

(委員) 重油、バイオマス、電気の比較を行って提示していただきたい。報告していただければ審議会でも検討の余地がある。

(事務局) 基本設計の段階で業者に判断してもらった事としていたが、実現可能か調査を行う。

(委員長) 施設整備方針やデザイン方針は審議のとおりで了承いただけるか。

(※委員より了承)

#### (4) その他

(副委員長) 本日の審議会にはコンサルが来ると説明があったが、それも変更になったのか。

(事務局) 前回はそのようにご説明したが、具体的な資料がないためコンサルが来ても説明する部分がないところである。

(副委員長) 議会報告では俯瞰図は添付しないということか。

(事務局) 答申は文言で報告となるため、図面等提示する予定はない。

## 9. 配布資料

- ・資料⑤ 第5回会議要録(熊ヶ畑地域小さな拠点施設整備等審議会)
- ・資料16 施設整備方針(熊ヶ畑地域)
- ・資料17 建築意匠デザイン方針(熊ヶ畑地域)